

# 研究生活、家内との出会い、子育て、いつも傍には音楽がありました

浜松(へうゆう)の里

角 徹三様(81歳) 令和2年8月 一人入居

## 引き揚げ先の熊本で踏み入った音楽の森

旧満州大連の生まれ。満州鉄道の電気技師だった父と優しい母、兄弟4人の6人家族でした。私は上から3番目。兄と弟に挟まれた真ん中っ子です。満州で終戦を迎えた私達は幸いにも家族揃って日本に帰ることができました。引き揚げ後は熊本のお父さんの実家で暮らし始めましたが、そこには祖母と叔母4人が居り、合わせて11人とい



大学生時代の角様。オーケストラ部の練習室で

う大家族になりました。母にとつて姑と4人の小姑との生活は何かと気苦労が多かったろうと思います。

私は小学校一年生から高校3年生までの12年間を熊本で過ごしました。学芸会などで人前に立つことが楽しい、人懐っこいそんな子供でした。また、母の実家は音楽好きが多く、その影響もあって中学二年でバイオリンを習い始めました。高校を卒業して京都の大学に入り、学内のオーケストラ部に入部。セカンドバイオリンを担当しました。大学院に進んでからも音楽に浸りつつ、研究室で実験と計算に明け暮れる毎日でした。修了後も大学に残り、京都暮らしはおよそ20年。大学で「鉄筋コンクリート建物の耐震性に関する研究」を続ける中、40歳の時に豊橋市の工科大学に異動しました。

## あつという間の子育てでした

家内とはオーケストラ部同輩の妹として知り合いました。28歳



と26歳で結婚し子供を二人授かりました。家内は体が弱く69歳で亡くなりましたが、家内を見ていて不自由を抱える人の大変さを少しは理解できるように became した気が

します。子供の話になりますが、私は親から勉強しろと言われた記憶がないんです。だから私も子供たちに勉強を強要しませんでした。家内は「お父さんが甘いから子供たちが勉強しないのよ」って思っていたようです。息子は勉強嫌いでしたが、スポーツマンで明るく育ってくれました。娘は結婚して母となり、いつの間にか女性の強さやたくましさ身に付けました。定年後、時間に余裕ができ「何か始めたい」と強く思い、調べると豊橋には男性合唱団がひとつだけあることを知りました。コンサートを聴きに行き大いに感動。次の日には電話で「入れてほしい」ってお願いしました。入居後も豊橋まで二時間かけて通い練習を続けています。

## 3食作るのが面倒になったのがホーム選びのきっかけ

老後を考え始めたのは、家内が亡くなって10年ほど経った頃です。朝昼夕と3食作るのが面倒に感じ、施設に入れば食事の支度や片付けが楽になるなんて思い始めま

した。勿論、子供に面倒をかけない暮らしをしようと考えていました。浜松(へうゆう)の里を見学してみたら近くに病院が揃っていて、医療面で安心しました。また、浜松市と豊橋市は近いため、子供達が訪れやすいのもポイントでした。子供二人に「へうゆうの里」を見てもらい「どう思う?」と聞くと、即刻「良いんじゃない!」との返事。気持ちが固まりました。

## 女性ばかりのコーラスサークルに男一人

朝の始まりは日課のラジオ体操。新聞に掲載されている数独も欠かしません。囲碁サークルの仲間と対局、部屋で好きな映画鑑賞、気がむけば読書、いつの間にか居眠りなんてことも。夜は8時に入浴11時に就寝。自分がやりたいことをやって暮らしています。なかなか快適ですよ。施設は自宅と違い集団生活ですが、プライバシーは守られ、マイペースで生活しています。

最近、里のコーラスサークルに入れてもらいました。女性ばかりのコーラスサークルになると、男一人です。「男性でも入れますか?」と聞いたら「どうぞどうぞ」と歓迎していただきました。私にとつて全く新しい世界です。せっかく頂いた機会ですので、何かお役に立てたらいいですね。